

# 図書館通信 —60—

1982. 7

## 附属図書館における今後の課題

### —学術情報システムとの関連から—

附属図書館長 細井寅三

#### 1. 学術情報システムに関する全国的動向

昭和55年5月、文部省は学術審議会の「今後における学術情報システムの在り方について」の答申を受けて「学術情報センターシステム開発調査協力者会議」を発足させ、コンピューターシステム、ネットワーク、図書館システムの在り方等について調査研究を開始した。そして、56年3月に「学術情報センターシステム開発調査概要」をまとめ、更に引き続いて57年3月に同概要と「学術情報センター設置調査概要」をまとめて報告し、59年度後半に事業を開始する目途で作業をすすめている。それに伴う構想として、「地区ネットワーク」の形成があり、全国大学図書館をいくつかの地区に分けて、それぞれの地区に地区センターを置き、その地区内の各大学図書館とネットワークを構成しようとするものである。

全国国立大学附属図書館が加盟する国立大学図書館協議会では、昭和56年5月文部大臣に対し、学術情報センター設置の早期実現と基盤組織となる大学図書館の整備促進について要望書を提出した。更に57年6月に同じ趣旨の要望書を重ねて提出した。

#### 2. 東海地区における国立大学図書館ネットワーク形成についての動向

地区ネットワークの形成は、今後の学術情報センターシステムの開発に大きな役割を占めるものであるが、東海地区では全国に先がけて地区ネットワークを形成する動きがみられる。すなわち、昭和54年度に、東海地区国立大学図書館協議会では、「東海地区国立大学図書館電算処理委員会」を発足させ、文部省の指導のもとに地区図書館ネットワークの構想を打ち出した。すなわち、

- (1) 名古屋大学附属図書館を地区センター館とし、東海地区国立7大学附属図書館がコンピュータネットワークを形成する。
- (2) 将来、学術情報センターと結んで全国システムに参加する。
- (3) 図書館業務のコンピュータ化を当面の課題とし、学術情報システムにおける図書館の役割を指向する。
- (4) 昭和56年度に名古屋大学に地区センターとしてのコンピュータを導入し、順次他の大学に広める。

以上の構想に従って、名古屋大学附属図書館では、昭和56年度にコンピュータを導入し、地区ネットワークの形成を考慮しつつ学内の図書館業務のコンピュータ化をすすめている。

#### 3. 静岡大学附属図書館における対応

##### (1) 現在までの状況

本学では学術情報システム、学術情報センターシステム及びこれに関連する東海地区国立大学図書館ネットワーク等のことについては、機会あるごとに図書館委員会や図書館通信などを通じて、全学への周知を図ってきた。一方、図書館内部においても、職員の研修、講習会等への参加や、関係資料の配布などによってこの面における知識の修得や意識の向上に努めている。

##### (2) これからの課題

#### お知らせ

臨時休館 7月21日(水)～7月24日(土)  
開館時間の変更

7月26日(月)～8月31日(火)

月～金曜日：8時30分～17時

土曜日：8時30分～12時

学術情報システムの開発に対応した本学図書館の今後の在り方について、次のごとき事項が懸案となる。

- ① 学術研究のための一次情報の収集整備
- ② 情報検索要員の養成とその確保
- ③ 所在情報形成のための目録類の整備
- ④ ネットワーク化のための機器類の整備
- ⑤ 保存書庫の増設、並びに大学院学生のための調査研究スペースの確保

## 浜松分館における オンライン文献情報検索サービス (DIALOG) の開始にあたって

浜松分館はこれまでの JOIS (日本科学技術情報センター) に加えて、7月から DIALOG (米国、ダイアログ社) の検索サービスを開始することになった。JOIS は昭和 53 年 10 月から工学部地区において、会員制により管理されてきたが、本年 4 月から分館管理に移行された。したがって利用者も会員に限定されることがなくなった。

DIALOG は昨年 2 度にわたって行われた説明会でそのデータベースの特徴、検索手順などの紹介がなされ、分館への導入が決められた。以下で概要についてふれてみる。

### I. サービス体制

検索の場所、時間帯、料金体系は次の通りである。

#### 1. 端末機

端末機は分館の教官閲覧室に設置されている。JOIS と共用する。型式はタイプライター式 (ポータブルタイプ) である。

#### 2. 料金体系

利用料金は次の 3 種の合算額から成る。国内代理店から 1 カ月ごとに分館に請求が届けられる。分館ではそれにもとづいて講座等から移算の処理を行う。

- ① データベース使用料：ファイルごとに料金が定められている。これに代理店の手数料率が加えられる。
- ② 専用回線使用料：国内代理店の中継 (ノード) 局 (静岡) —— 東京々 (衛星回線経由) 々 米国 (ダイアログ社) の間の使用料金。
- ③ 公衆回線使用料：分館 (浜松) —— ノード局 (静岡) の間の公衆回線使用料金。

#### 3. DIALOG への接続時間帯

サービス時間帯 (システム稼動) は次の表の

以上の事項のうちのいくつかは、今日全国的に急速に進展する学術情報システム化の中にあつて、本学図書館が分担すべき役割を果たすために早急な検討を迫られているものである。当面の課題としては、地区ネットワークの形成に対応し得る図書館業務の整備であり、それに必要な機器類の導入の時期とその方法、並びに要員の養成とその確保が緊急な検討事項となっている。

ようになっている。曜日によって異なっているので注意を要する。

曜日	サービス時間帯 (日本時間)
月	14:00~24:00
火~金	0:00~12:00 14:00~24:00
土	0:00~10:00

### II. 検索 (オペレート) にあたって

利用者は端末機操作に入る前に、次の点について準備をすることが必要である。

#### 1. 検索語の用意

検索の目的によって次のようになる。

- ① 主題検索などの場合：キーワード、著者名、会議名などを用意する。
- ② 書誌事項の検索：引用データなど関連事項はできる限り多く用意する。

#### 2. 論理式の組み立て

検索語間の関連を、論理積・和・差によってあらかじめ組み立て、検索に臨む。組み立て方はコマンドの説明の項を参照頂きたい。

#### 3. データベース (ファイル) の選定

DIALOG は現在約 150 種のデータベースを保有している。検索デスクに備えつけの一覧表、マニュアル等を参照のうえ、検索すべきデータベースを決め、そのファイル番号を確認する。

#### 4. 打ち出しフォーマットの選択

検索の結果をデータシートに打ち出す際、どの範囲まで情報を引き出すかの選択をしておく。(フォーマットは 6 種に分れている。コマンドの項を参照のこと)

5. 基本コマンド

検索に使用される基本的なコマンドは次の通りである。コマンドにさらにトランケーションや付加的索引をつけ加えて、検索が実行される。

表1 DIALOG 基本コマンド

コマンド	略語	意味	使用例
BEGIN	B	ファイルの選定	B 8 (8:ファイル番号)
SELECT	S	キーワード、著者名などの検索	S POLYMER S AU=SMITH.A
COMBINE	C	論理式の形成 AND*: (●) OR+: (◎) NOT-: (⊖)	C 1 AND (2 OR 3) C 1 * (2 + 3) (1, 2, 3 は Address No.)
TYPE	T	オンライン・タイプ指示 FORMAT 1 DIALOG文献番号のみ 2 全項目(抄録は除く) 3 書誌データ 4 抄録のみ 5 全項目(抄録も含む) 6 タイトルのみ 7~9(ファイルにより異なる)	T 4/5/1-10 Set No. ↑ ↓ 件数 (Address指定) FORMAT 指定
PRINT	PR	オフラインプリント指示	PR 4/5/1-50
END/SAVE	TEMP	検索語と論理式を24時間記憶	END/SAVETEMP
.EXECUTE STEPS	.EXS	記憶させたものを呼び出す	↑ .EXS T 1 GK ↑ ヒリオドが END/SAVE 必要時に与えられる
LOGOFF		検索終了 入力後、終了データが表示される	LOGOFF

表2 トランケーション実例

トランケーション用の記号は?を用いる。前方一致と語中の不定文字の指定が可能で、任意長と指定長とを以下のように行う。

使用例	使用方法
1) S EMPLOY ? S AU=SMITH.A ?	EMPLOYMENT; EMPLOYER 等を検索する SMITH.ADAM; SMITH.A.K など
語幹のあとに続く字数を制限しない方法	
2) S CAT ??	CAT; CATSは検索する CATALYSISは検索しない
語幹のあとに続く字数制限の方法 ?? 2字以内 ??? 3字以内	
3) S WOM ? N	WOMAN; WOMEN
語中の文字変化を含み込む	
4) S WORKWOM ? N ?	上記の1)~3)の結合型

表3 付加的索引

記号	フィールド	使用例
AU=	著者名	S AU=JOHNSON,R.N.
JN=	雑誌名	S JN=NATURE
CF=	会議名	S CF=INTERNATIONAL CONFERENCE ON BIOTECH ?
CS=	機関名	S CS=I.E.E.E.
PY=	出版年	S PY=197 ? (1970-79年までの指定の場合)
JA=	掲載二次資料の巻号年	S JA=CA 08615
LA=	使用言語	S LA=FR

III. データベースの概要

DIALOG のデータベースはファイルの種類と使用料金が頻繁に更新・改定される。利用する側はダイアログ社からの情報にたえず注意を払っておく必要がある。なお、分館において、よく使用されると思われる主要データベースの一部分をその概要について次の表で紹介する。

表4 主要データベース一覧

ファイル番号	データベース名 (作製機関名:対応資料名)	主題分野	週及可能年次
308~311 320	CA SEARCH (Chemical Abstracts Service, American Chemical Society; Chemical Abstracts.)	応用化学、合成化学、化学工学、化学物質、物理・分析化学ほか	# 308: 1967-71 309: 1972-76 320: 1977-79 310: 1980-81 311: 1982-
6	NTIS (National Technical Information Service WGA (Weekly Government Abst., GRA & I (Government Report Announcements & Index)ほか)	米国連邦政府機関関係の研究・開発レポートなど。電子工学、情報工学、宇宙工学、物理学ほか、先端科学技術分野の大半をカバーする	1964-
8	COMPENDEX (Engineering Index Inc.; Engineering Index)	工学系の全分野	1970-
12, 13	INSPEC (IEE; Science Abstracts 各編)	電気・電子・制御工学ほか	1969-
32	METADEX (Amer. Society for Metals and Metal Society; Metal Index)	金属工学、冶金学ほか	1966-
34, 94 186	SCISEARCH (Institute for Scientific Information; Science Citation Index)	医学を含む科学技術分野の全般。他に類をみない大規模引用索引である	# 186: 1974-77 94: 1978-80 34: 1981-
35	COMPREHENSIVE DISSERTATION ABSTRACTS (Univ. Microfilm International; CDI (Comprehensive Dissertation Index))	欧米の人文・社会・自然科学分野の学位論文	1861-
77	CONFERENCE PAPERS INDEX (Data Courier Inc.; Conference Papers Index)	世界の主要な科学技術分野の国際会議データ	1973-
1	ERIC (National Inst. of Education)	教育学、心理学、言語学	1966-
61	LISA (Library Assoc., Gt.Brit.)	情報科学、図書館学	1969-

なお、上述以外に、次のデータベースが年内には追加される予定になっている。

- i) MATHEMATICAL REVIEWS (Mathematical Review に対応)
- ii) BOOKS IN PRINT (同タイトル対応)
- iii) LC MARC (U.S.National Union Catalog に対応)

上述のほか、人文・社会科学分野でも多数データベースがある。『ガイド』等を参照のこと。

#### IV. システム導入に伴う諸課題

オンライン検索システムの導入はホストコンピュータに収録された資料群とユーザー(図書館)とを直結させる。そのことで個々の図書館(浜松分館)は大型二次資料などの収書政策とその活用法(レファレンス業務など)に大きな変化と課題とに対処する必要を生ずることになった。

i) エンドユーザーの増大と検索オペレーターの習熟: 検索をユーザー自身の手で行うことを基本に、館員との協力体制をどう築いていくかについて検討を進める必要がある。

ii) 検索料金計算事務の簡素化: 電話回線およびデータベース使用料はオンラインということと、外国との接続ということから複雑な計算を伴うが、今後できる限りの簡素化が望まれる。

iii) サービス内容(質)の向上: SDI(選択的情報提供)、遡及検索機能(RS)などのシステム強化、一次資料の速やかな入手の実現等があげられる。

iv) オペレーター(検索サーチャー)の研修: より高度な検索を行うため、専門コース講習会に積極的に参加することが必要である。

v) 学術情報システムとのかかわり方: 学術情報センターシステムでは二次情報データベース、一次資料目録と所在情報データベースを管理・運用するための計画が進められている。浜松分館など各端末館ではセンターシステムとの関連づけをした上で、DIALOG等の商業データベースサービスとの共用体制をとることが必要である。

vi) レファレンス業務をはじめ図書館業務全般に対するインパクト: オンラインシステムは主題検索、書誌事項調査、引用調査などの面でこれまでのマニュアル検索では不可能に近かった機能をも実現させるようになってきている。レファレンスの他、収書方針策定資料の作成、目録作成業務などへの応用など様々な可能性について既にいくつかの大学図書館において試行されてきている。

上述のいずれの事項とも、浜松分館の充実にあ

たって与えられた課題として受けとめていきたい。

文責・森 生也(附属図書館浜松分館)

なお、本稿作成にあたっては「利用ガイド」、「データベース・主題ガイド—DIALOGハンディマニュアル(II)」(ともに紀伊国屋書店編・発行)を主な参考資料として使用させていただいた。また、関連文献(いずれも浜松分館所蔵)として下記に挙げておく。(順不同)

- I) 笹本光雄他著『化学・薬学・生物医学のオンライン情報検索』(地人書館、1981)
- ii) L.A.テッド著『コンピュータ・ベースの図書館システム入門』(法律文化社、1979)
- iii) 島内武彦監修『情報システムのための大規模データベースの利用法』(近代科学社、1979)
- iv) 根岸正光他編『大学図書館のシステム化——文部省科研費「大学図書館における情報処理トータルシステムの開発」』(紀伊国屋、1981)
- v) 『DIALOG探索マニュアル(日本語版)』(紀伊国屋、1979)

#### 〈図書館利用ガイドコーナー 2〉

文献を探す②〜『雑誌記事索引』について

参考図書のある4階閲覧室でよく利用されるレファレンス・ブックには、語学辞典、百科事典のほかに、雑誌記事索引があります。前回、あるテーマについて文献を探す道具がいろいろあるといいましたがその代表的な例です。

この雑誌記事索引は、国立国会図書館に納本された雑誌の中の論文・記事を索引化したもので、採録の対象となる雑誌や刊行形式などかなり変化してきていますが、現在では、人文社会編、科学技術編、医学薬学編に別れ、3カ月ごとに年4回刊行されています。なお、人文社会編は5年あるいは10年間をまとめた累積索引版が刊行されていて利用しやすくなっています。編成・収録範囲などについては別表をみて下さい。以下、人文社会編の累積索引版(以下、累積版)を中心に説明します。

レファレンス・ブックの多くは、より速くより簡単に必要とする内容にたどりつけるように、索引を備えています。累積版では、1948~1964年分と1965~1974年分のそれぞれに、総合索引・件名編と総合索引・著者名編があります。件名編の内容は、事項索引、書名・作品名索引、人名索引となっています。著者名索引は累積版I~XIの各編にもついています。3カ月ごとに刊行されるものには、

各巻の最後に別冊として著者名索引が刊行されています。

〈別表〉 ※ 1981年現在

	人文社会編	科学技術編	医学薬学編
配列	分類順	分類順	分類順
刊行年	1948—現在	1950—現在	1979—現在
収録範囲	対象誌	和文誌 1846	和文誌 1313
	記事情	論文、記事、書誌、書評、他 ※除外する記事—2頁以下の記事、統計表、文学作品、判例そのもの、他	
<p>※人文社会編・累積索引版について 第1期=1970—1974年、第2期=1965—1969年 第3期=1955—1964年、第4期=1945—1954年 (1975—1979年は刊行中) 各期とも下記のⅠ～Ⅺに別れる。 Ⅰ政治・行政 Ⅱ法律 Ⅲ経済 Ⅳ産業 Ⅴ社会 Ⅵ労働 Ⅶ教育・文化 Ⅷ哲学 ・宗教 Ⅸ歴史・地理 X文学・語学 Ⅺ芸術・芸能・スポーツ 索引：第Ⅰ～Ⅱ期(1965—1974)、第Ⅲ～Ⅳ期 にそれぞれ総合索引(件名編、著者名編)</p>			

〈使い方の例〉教科書検定についての文献を探す。「累積版」総合索引・件名編の事項索引(50音順)で「教科書」の項目をみます(図1)

教科書	
→教育	教① 18
→教育課程・教育方法	教① 165 教② 115
→教育課程・教育方法(海外)	教② 104
→教育政策・制度・行財政	教① 115 教② 71
→文化・教育法●教育	法② 153
→行政 →憲法●●教科書検定・教科書裁判	法② 42
一検定	
→教育政策・制度・行財政●●教科書	教① 115
教育政策・制度・行財政●●教科書裁判	教② 83
→憲法	法② 42
→憲法●●教科書裁判	法① 52

〈図1：総合索引・件名編「事項索引」〉

「教科書」という項目の下に「教科書一検定」という項目が見つかりました。矢印は「次の分類項目をみよ」ということで、「教科書一検定」に関する論文・記事を含む項目が4つ示されています。左端の「教① 115」は、第1期(1970—74年累積版)の教育・文化115頁ということです。

●●教科書	(参照：争訟事件●●教科書裁判)
白井吉見	教科書を歪めるのは誰か(お茶の間放談)：文芸春秋 48(10)〔'70.9〕p124—132
大川隆司	「秘密」文書が示す教科書検定の実態：文化評論 132〔'72.8〕p33—49
大田弘	「教科書官僚」の体質は何か：中央公論 85(10)〔'70.10〕p172—183
大野保治	教科書検定判決の憲法学的考察——学説の此判的検討と判決の積極的評価：大分大学教育学部研究科学B) 4(1)〔'71.10〕p1—13
長田三男	義務教育教科書無償制度確立の経緯：流通経済論集 7(3)〔'72.12〕p81—97
兼子仁	教科書検定と教育権——東京地裁昭49.7.16「高津判決」をめぐる：法学セミナー228〔'70.9〕

図2：Ⅶ教育・文化「教育政策・制度・行財政●●教科書」

このうち、教育政策・制度・行財政●●教科書を見てみます(図2)。そこには、左から、著者、論題：雑誌名、巻(号)、〔年月〕を記載した文献が並んでいます。この中から、必要とするものを探してゆきます。以下、「●●教科書裁判」「憲法・教科書裁判」等についてもみてゆきます。

もっと最近の文献を探すには、3カ月ごとに刊行されているものをみます。これには累積版のように事項索引はありませんから、まず目次をみます。累積版とほぼ同じ体系になっていますので、「教育政策・制度・行財政」を探し、本文(主題索引)をみてゆきます。

このように、雑誌記事索引を創刊からみてゆけば、文献が広範囲に探せますが、単行本など採録されない文献(別表：除外する記事を参照)については、別のレファレンス・ブックを探します。

## ■図書館委員会委員名簿 (昭和 57 年度)

図書館長	細井寅三	
分館長	大月卓郎	
人文学部	川口博	居城弘
教育学部	鈴木孝厚	斉藤千代子
理学部	檀原毅	立島章
工学部	片桐孝夫	
農学部	寺谷文之	西垣定次郎
教養部	三浦弘万	大野武
電子研	豊田耕一	畑中義武
電子科研	熊川征司	三浦五郎
法経短大	平田良	
本部	稲葉健治	
図書館	内藤正	

## ■図書館委員会報告

○昭和 56 年度 第 6 回 S.57.3.16

### 議事

1. 来年度の図書館経費の編成方針について審議し、従来どおりとすることとした。
2. 外国雑誌購入費の節減留保分について、修正配分することを了承した。
3. 「静岡大学附属図書館閲覧規程」の改正について、次年度議題化して検討することを了承した。

○昭和 57 年度 第 1 回 S.57.5.7

### 議事

1. 昭和 58 年度概算要求事項として、図書館職員の人員増と、学術情報システム端末処理装置(特別設備費)を要求することを了承した。
2. 参考図書購入費及び、学生用図書購入費の配分について、従来どおりの方法で配分することを了承した。
3. 「静岡大学附属図書館規則の一部を改正する規則」、「静岡大学附属図書館利用規程」、「静岡大学附属図書館文献複写規程の一部を改正する規程」及び「静岡大学附属図書館文献複写料金事務取扱細則の一部を改正する細則」の各案について審議し、次回引き続き検討を継続することとした。
4. 「昭和 57 年度図書資料(大型コレクション)収書計画調書」について、人文学部、教養部、法経短大の各 1 点ずつを提出することとした。

○昭和 57 年度 第 2 回 S.57.5.26

### 議事

1. 昭和 57 年度図書館運営費予算案について審

議し、委員会として原案を了承した。また、ここ数年来の慣行どおり本委員会の決定をもって、維持費検討委員会の審議を省略することを了承した。

2. 昭和 57 年度指定図書購入費分担額について審議し、了承した。
3. 昭和 57 年度学生用図書購入費試算表について審議し、了承した。

## ■教職員著作寄贈図書

上田伝明 (教養部)

『日本国憲法講義』人権編 上田伍明著  
法律文化社 1982 (323.4/U 32)

山脇貞司 (人文学部)

『民法 5 親族・相続』(法律学双書)

甲斐道太郎他著 山脇貞司執筆 蒼林社  
1981 (324/Ka 21/5)

## ■お知らせ (本館)

- (1) 夏休み中の長期貸出  
貸出冊数: 4冊まで  
貸出開始日: 7月1日(木)  
返却期限: 9月16日(木)
- (2) 他大学の図書館への紹介

他大学の図書館の資料を使いたい人には、紹介状を発行しています。卒業論文やレポートの作成などにご利用下さい。希望者は参考調査係の窓口まで。(大学院生は、共通閲覧証を利用して下さい。)

## ■人事異動 (本館)

転任 (57.4.1付)

近藤禧<sup>きよし</sup><sup>あき</sup> 閲覧課長→横浜国立大学附属図書館整理課長

昇任 (57.4.1付)

繪鳩彰 文部省大臣官房情報処理課→閲覧課長

配置換 (57.4.1付)

山下規子 整理課総務係→農学部庶務係

池田文明 整理課受入係→法経短大総務係

窪田久子 人文学部庶務係→整理課総務係

配置換 (57.5.1付)

池ヶ谷元志 整理課総務係長→主計課総務係長

篠ヶ谷克己 主計課総務係長→整理課総務係長

## ■昭和 57 年度『図書館通信』編集委員

館長 三浦弘万 (教養部) 立島章 (理学部)

塚本雅美 望月信夫 島村敏子 横山芳美